

別当出合での植生調査

鳥 畠 昭 信・野 上 達 也 石川県白山自然保護センター

VEGETATION SURVEY AT BETTOU-DEAI, HAKUSAN

Akinobu TORIBATAKE and Tatsuya NOGAMI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

別当出合（標高1,260m）は砂防新道及び観光新道の起点となっている（図1）。砂防新道は白山の登山道の中では最も利用者が多い登山道で、2002年に白山自然保護センターが行った登山者への聞き取り調査の結果では、上りに89.2%，下りに62.2%が利用し、観光新道は上りに9.3%，下りに30.6%が利用しており（石川県白山自然保護センター（編），2004），あわせると上りに98.5%，下りに92.8%が別当出合を利用していることになる。この白山の重要な登山道の拠点である別当出合で植生調査を行ったので、その結果を報告する。

調査位置と方法

現地調査は、2004年6月10日に砂防新道及び観光新道の登山口である別当出合、手取川別当谷の右岸側で1か所、左岸側で2か所方形区を設置し、



図1

Braun-Blanquet, J. (1964) の植物社会学的測定法の理論と手法に従い、生育していた全植物について被度、群度を階層別に記録した。また、立地条件については、標高、傾斜方向、傾斜角度、微地形、日当たり、風当たり、土壌水分の状態などを可能な限り記録した。

結果

調査結果を表1～3に示す。

表1の調査地No.1は手取川左岸側で、方形区の大きさは2m×3mで、23種の植物が確認された。ドロノキ (*Populus suaveolens* Fisch.) が欠落しているが、オオバヤナギ (*Salix cardiophylla* Trautv. et C.A.Mey. var. *urbaniana* (Seemen) Kudô), ドロノキを標徴種としたオオバヤナギ-ドロノキ群集とした。石川県のこの群集では、オノエヤナギ (*Salix udensis* Trautv. et C.A.Mey.) が混生する機会が多いとされており（石川県植生誌編纂委員会（編），1997），本調査地でもオノエヤナギが混生している。

表2の調査地はNo.1と同様手取川左岸側、方形区の大きさは5m×5mで、34種の植物が確認された。タニウツギ (*Weigela hortensis* (Siebold et Zucc.) K.Koch) やヒメヤシャブシ (*Alnus pendula* Matsum.) が優先し、これらが標徴種となっているタニウツギ-ヤマハンノキ群集である。本調査地では石川県の絶滅のおそれのある野生生物の絶滅危惧類にランク付けされているギンラン (*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *erecta*) が2個体と絶滅危惧類にランク付けされているヒロハハナヤスリ (*Ophioglossum vulgatum* L.) とノビネチドリ (*Gymnadenia camtschtica* (Cham.) Miyabe et Kudo) が確認された。

表 1

石川県 植生調査票

No. 1 (区画) 石川 石川 白山 野上

(標高) 北緯: 36° 31' 40" 東経: 136° 54' 00" (面積) 12.94 m²

(土壌) 砂質土・粘質土・赤土・黒土・腐植土・アモルフィス (方位) W

(調査日) 1999. 10. 25 (調査時間) 5 (調査者) S

(調査) (調査日) (高さ) (観察者) (調査) (備考)

1 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

2 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

3 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

4 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

5 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

6 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

7 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

8 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

9 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

10 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

11 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

12 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

13 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

14 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

15 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

16 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

17 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

18 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

19 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

20 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

21 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

22 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

23 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

24 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

25 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

26 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

27 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

28 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

29 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

30 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

調査地: 白山自然保護センター

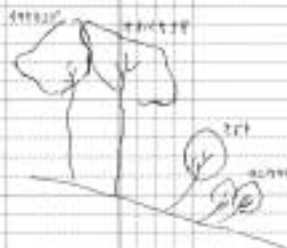


表 2

石川県 植生調査票

No. 2 (区画) 石川 石川 白山 野上

(標高) 北緯: 36° 31' 40" 東経: 136° 54' 00" (面積) 12.95 m²

(土壌) 砂質土・粘質土・赤土・黒土・腐植土・アモルフィス (方位) W

(調査日) 1999. 10. 25 (調査時間) 5 (調査者) S

(調査) (調査日) (高さ) (観察者) (調査) (備考)

1 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

2 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

3 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

4 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

5 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

6 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

7 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

8 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

9 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

10 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

11 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

12 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

13 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

14 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

15 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

16 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

17 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

18 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

19 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

20 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

21 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

22 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

23 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

24 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

25 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

26 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

27 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

28 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

29 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

30 調査地 白山自然保護センター 5 10 10

調査地: 白山自然保護センター



ギンランはラン科キンラン属の地生の多年草で白色の花を数花つける(佐竹ら, 1982a)。本州, 四国, 九州, さらに朝鮮半島に分布し, 石川県の隣接県では富山, 福井, 岐阜の各県に, 石川県内では奥能登, 口能登, 加賀中央区, 南加賀区の白山麓に分布する(石川県環境安全部自然保護課(編), 2000)。かつては普通の植物であったものが, 近年急激に減少し, ごく稀な植物となったことから石川県では絶滅の恐れが大きいとして, 絶滅危惧 類にランク付けされている。また, 絶滅危惧 類のヒロハハナヤスリは, ハナヤスリ科ハナヤスリ属に属し, 色丹島から北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 種子島まで, また, ヨーロッパ, 北アジア, 北アメリカ, 北アフリカなどの北半球に分布する。石川県の隣接県では富山, 福井, 岐阜の各県に, 石川県内では外浦区, 内浦区, 加賀中央区, 南加賀区に分布する。生育地がごく稀で, 生育地における個体数が少なく, 減少傾向にある(石川県環境安全部自然保護課(編), 2000)。もう一つの絶滅危惧 類のノビネチドリは, ラン科テガタチドリ属に属し, 山地の樹林下の湿った所に生

え, 多数の淡紅紫色の花を穂状につける(佐竹ら, 1982b)。北海道, 本州(中部以北), 四国, 九州(宮崎県: 現状は不明), さらに樺太, カムチャッカ, 朝鮮に分布し, 石川県の隣接県では富山, 福井, 岐阜の各県に, 石川県内では奥能登, 口能登, 加賀中央部, 南加賀区の白山麓に分布する(石川県環境安全部自然保護課(編), 2000)。野上(2004)では, 同じ白山麓の別山・市ノ瀬道での確認例が報告されている。

表 3 の調査地はNo. 1, 2 とは異なり, 手取川右岸側で調査したもので, 方形区の大きさは 4 m x 4 m で, 26 種の植物が確認された。アカソ (*Boehmeria silvestrii* (Pamp.) W.T.Wang) やクロバナヒキオコシ (*Isodon trichocarpus* (Maxim.) Kudô) が群集の標徴種となっているアカソ - オオヨモギ群集である。この調査地でもNo. 2 と同じく石川県の絶滅のおそれのある野生生物の絶滅危惧 類にランク付けされているギンラン 1 個体が確認された。

表3

石川県 植生調査票

調査日(月・日) 調査者(氏名) 調査地(市町村) 調査時間(時・分)

調査種目(樹木・草花・菌類・苔蘚・地衣・シダ植物) 調査結果(有/無)

調査地(市町村) 調査時間(時・分) 調査種目(樹木・草花・菌類・苔蘚・地衣・シダ植物) 調査結果(有/無)

調査種目	調査結果
樹木	シラカシ 1、トナリ 1、クヌギ 1、コナラ 1、カツラ 1、スズナギサ 1、クサギ 1、ヤナギ 1、クマゲソ 1、トゲナギ 1、コナラ 1、カツラ 1、スズナギサ 1、クサギ 1、ヤナギ 1、クマゲソ 1、トゲナギ 1
草花	クサギ 1、ヤナギ 1、クマゲソ 1、トゲナギ 1
菌類	
苔蘚	
地衣	
シダ植物	

調査地(市町村) 調査時間(時・分) 調査種目(樹木・草花・菌類・苔蘚・地衣・シダ植物) 調査結果(有/無)

おわりに

今回報告した植生調査で確認された植生は、白山

麓の川辺や崩壊斜面や法面で見られる植生で特に珍しいものではなかったが、石川県では絶滅の恐れが大きいとされる絶滅危惧種3種、すなわち絶滅危惧類にランク付けされているギンラン、絶滅危惧類にランク付けされているヒロハナヤスリ、ノビネチドリが確認された。別当出合は白山登山の拠点として多くの登山者が利用しているが、現在の利用場所は、はっきりと区分されており大きな問題はないと思われるが、今後、保護保全に留意する必要があると考える。

文献

Braun-Blanquet, J. (1964) Pflanzensoziologie: Grundzüge der Vegetationskunde, 3 Aufl. Springer-Verlag, Wien, 865pp.

石川県白山自然保護センター(編)(2004) 登山者利用動態, 石川県白山自然保護センター, 1 - 10 .

石川県環境安全部自然保護課(編)(2000) 石川県の絶滅のおそれのある野生生物<植物編> - いしかわレッドデータブック -, 石川県環境安全部自然保護課, 358pp .

石川県植生誌編纂委員会(編)(1997) 石川県植生誌, 石川県環境安全部自然保護課, 230pp .

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編)(1982a) ギンラン. 日本の野生植物 単子葉類, 平凡社, 207 - 208 .

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編)(1982b) ノビネチドリ. 日本の野生植物 単子葉類, 平凡社, 201 - 202 .

野上達也(2004) 別山・市ノ瀬道及び観光新道で確認された希少ラン科植物. 石川県白山自然保護センター研究報告, 31, 45 - 48 .